

盛岡大学附属厨川幼稚園

令和3年度 学校評価 保護者アンケート集計結果

令和3年11月15～19日に行った保護者に対するアンケートの結果を踏まえ、学校評価での教職員の意識との相違点と一致点について現状の把握、その背景や今後の課題について考察した。

回答記号A（そう思う）がいずれの項目も80%以上という高評価を頂いた。これも保護者の方々の保育に対してのご理解とご協力があった結果と考える。その中でも、回答記号A（そう思う）が85%以下の項目について考察を行った。

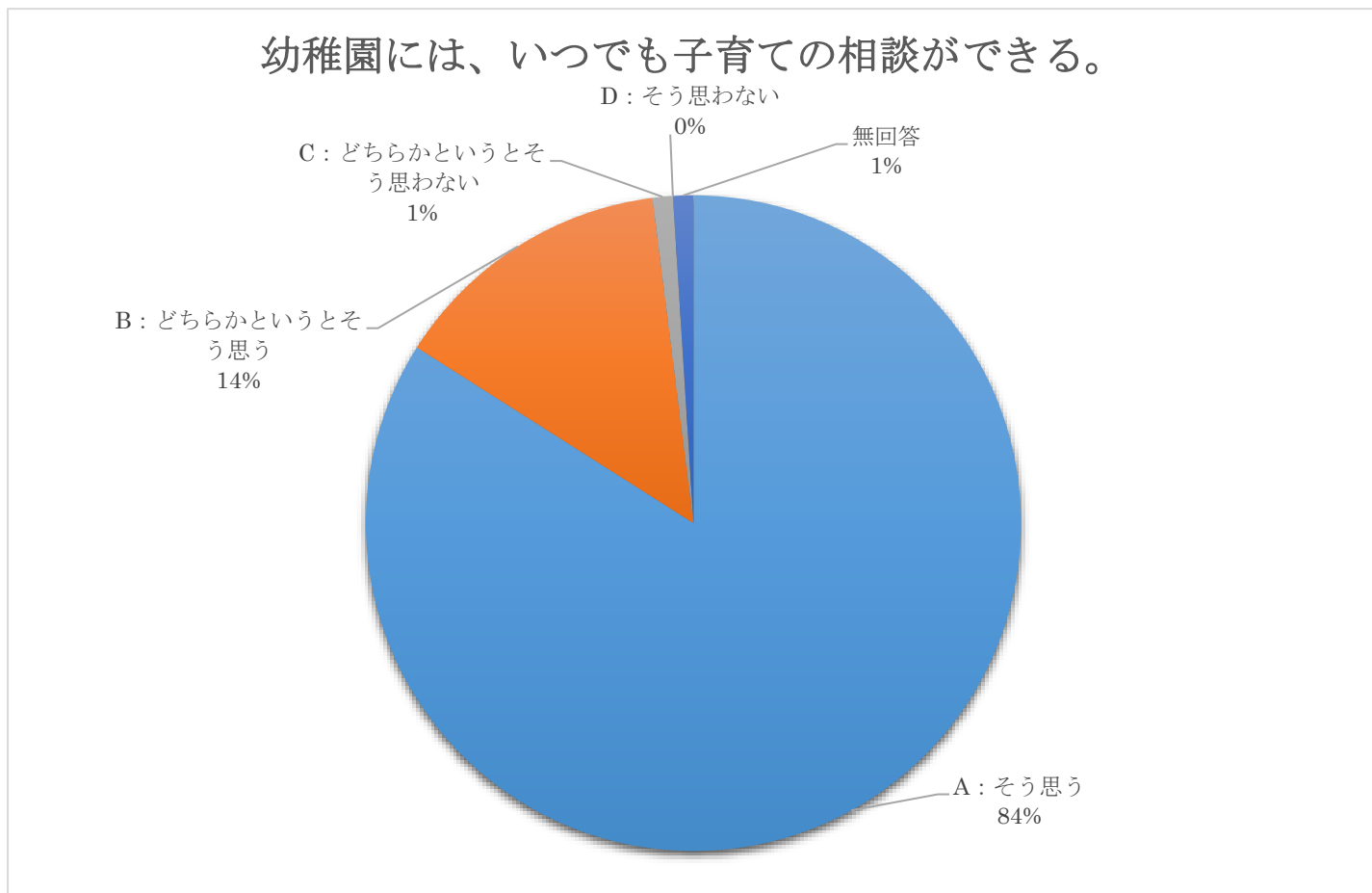
保護者アンケート結果 回答率：100%

A=そう思う。 B=どちらかといえばそう思う。 C=あまりそう思わない。 D=そう思わない。

(%)

大項目	小項目	A	B	C	D	無回答
I 保育の計画性について	1 幼稚園は、教育目標（キリスト教精神に基づき、健康で明るい心の豊かな子どもを育てる。「心も体も健やかな明るい子ども」「豊かに感じのびのびと表現する子ども」「意欲を持って活動に取り組む子ども」）を意識しながら保育を行っている。	95	4			1
	2 幼稚園は、子ども達の育ちを捉え、それに合わせた行事を行っている。	91	8			1
	3 幼稚園は、子どもの発達を捉え年間を通して計画的・総合的な指導をしている。	88	9			3
	4 幼稚園は、子ども達の発達を考え、環境（自然・教材・遊具・生活・・・etc）に興味や関心が持てるように工夫されている。	92	5			3
II 保育の在り方について	1 幼稚園は、子ども達の心身の健康状態を把握しようと努めている。	90	8	1		1
	2 幼稚園は、施設・遊具の安全点検や環境美化に努めている。	86	13			1
	3 幼稚園は、子ども達一人ひとりを受け止めて保育している。	95	4	1		
	4 幼稚園は、異年齢の交流の中で互いの育ち合いを大切にしている。	92	7			1
III 保育者について	1 幼稚園の先生は、明るく清潔感があり保護者に対して丁寧に対応している。	96	4			
	2 幼稚園の先生は、保育について協力し合う等、チームワークが取れている。	92	6	1		1
	3 幼稚園の先生は、保育の喜びや楽しさを感じている。	95	4			1
	4 幼稚園の先生たち皆が、園の子どもたちとかかわりを持っている。	94	5			1
IV 保護者への対応	1 幼稚園は、園便り・クラス便り・Facebook等を通して園の情報を保護者に伝えている。	92	7	1		
	2 幼稚園には、いつでも子育ての相談ができる。	84	14	1		1
	3 幼稚園の預かり保育は、保護者のニーズに応じて実施している。	87	10	1		1
	4 幼稚園は保護者と共に、子どもの望ましい育ちについて考えていけるよう積極的に連携を取るようになっている。	92	7			1
	5 幼稚園は、個人情報等の守秘義務を遵守している。	94	5			1
	6 幼稚園は、良識やマナーを持って適切な対応を行っている。	95	4			1
V 地域、自然や社会とのかかわり	1 幼稚園は、身近な地域や自然とのかかわりを持っている。	88	10	1		1
	2 幼稚園は、近隣の小学校と連携を持っていることを知っている。	86	11	3		
	3 幼稚園は、学生や地域の人々との交流を積極的に行っている。	88	8	3		1
VI 研修と研究	1 幼稚園の先生は、各研修会や月一度の研究会などに参加し保育の質向上のために努力している。	94	6			
VII その他	1 幼稚園は、学生の教員養成の役割を果たしている。 (実習生、ゼミ、ボランティア等)	95	5			

IV 保護者への対応 — 2



○結果の背景と今後の取り組み

今年度は、こども園の園舎建設により、厨川幼稚園の園舎が取り壊しとなり、毎日厨川から松園幼稚園へ大型バスで移動して保育を行っていた。保護者に子どもの様子を伝えられるよう、直接話せない時は電話や連絡帳などで伝えられるよう工夫してきた。しかし、ドライブスルー形式の送迎の為、例年に比べると保護者と話す時間が限られていた。

来年は、こども園が開園しバスでの移動がなくなるため、日々の様子など保護者と直接顔を合わせて話す時間を大切にしていきたい。

# 学校法人盛岡大学附属厨川幼稚園

## 令和3年度自己評価

令和4年3月31日

### 1 教育目標

キリスト教精神に基づき、健康で明るい心の豊かな子どもを育てる。

- ・心も体も健やかな明るい子ども
- ・豊かに感じのびのびと表現する子ども
- ・意欲を持って活動に取り組む子ども

### 2 令和3年度の目標

- ・園内研修、教育課程編成など、教育内容の充実を図るため、計画的に話し合いを行う。
- ・保育室の整理整頓、園内外の環境美化について更に意識して行うことを心がける。
- ・日々の保育計画や行事の準備、園務分掌など、保育者間で連携を取りながら見通しを持って行っていくよう努める。
- ・子どもの育ちや保育について、保護者に分かりやすく伝え、子どもの成長を共に喜び合えるように信頼関係を築いていく。
- ・地域の施設、公園等を利用し、実体験からの学びを大切にしていけるよう、保育者間で話し合い、保育に取り入れていく。

### 3 評価項目の達成と取り組み状況

評価項目	達成と取り組み状況
I. 保育の計画性について	<ul style="list-style-type: none"><li>・毎日、厨川から松園まで移動して保育を行った。職員の出勤場所も厨川と松園と別れるなど勤務体制の変化により、全員そろって話をする時間が少なかったが、極力時間をみつけて情報共有をするよう心がけた。</li><li>・遊びや環境の振り返りをし、保育の準備をする時間を確保することも難しかった。見通しを持ちながら進めていく事を心がけていたが、実際は非常に厳しかった。</li><li>・行事の反省や気づき、改善策などを記録し、次年度につながるよう意識した。</li><li>・子どもの興味や関心に添った環境構成を心がけた。</li></ul>
II. 保育の在り方、幼児への対応について	<ul style="list-style-type: none"><li>・子ども一人一人を理解し、丁寧に受け止めようと心掛けた。</li><li>・保育者間での連携、共通理解、意見交換など、今後も大切にしていきたい。</li><li>・異年齢で交わることが少なく、他のクラスの様子が見えにくかった。交流する機会を設けていきたい。</li><li>・安全面に関しては怪我があった際等、全体で改善策を話し合い意識することができた。</li><li>・支援が必要な子の人数にかかわる職員の数など、加配が難しい現状があるが、今後も職員同士で情報交換をし、園児への具体的なかかわり方を共有できるように心がけていきたい。</li></ul>

<p>III. 保育者としての資質と能力について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の内容や出来事について、日々の報告、連絡、相談を意識し行った。</li> <li>・保護者に必要な連絡事項を担当が直接連絡できない場合、担任外等に依頼し、その後伝わったかを確認するようにした。</li> <li>・職員全員がチームとして動くことを心がけた。</li> <li>・子どもと共に生活を創ることが楽しいと感じた。これからも楽しく保育したい。</li> <li>・日々の保育計画や行事の準備、園務分掌など、より見通しを持って保育者間で連携を取りながら行っていく必要性を感じた。</li> </ul>
<p>IV. 保護者への対応について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電話、連絡帳、お便り等で子どもの様子を伝え、保護者との情報交換ができるように努めた。</li> <li>・バス送迎の際に個別の園児の様子について保護者に伝えることは意識していたが、ドライブスルー形式のため、時間の確保が難しかった。</li> </ul>
<p>V. 地域の自然や社会とのかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ渦の影響が大きく、例年に比べると地域の施設の利用や小学校との交流など難しいこともあった。</li> <li>・遠足や園外保育の際、地域の施設や公園を利用し、新しい環境に足を運べたことは良かった。地域で遊びに行ける場所等、工夫して子ども達と一緒に楽しみながら考えていく必要がある。</li> <li>・未就園児サークルは、人数を制限するなど工夫してみたが、コロナの感染状況により2回のみで開催となった。今後も、工夫しながら子育て支援を行っていききたい。</li> </ul>
<p>VI. 研修と研究</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が近隣のこども園での保育実習は、次年度のこども園開園に向けた有意義な研修となった。</li> <li>・週一回、園内研修の時間を設けて、継続的に行ってきた。</li> <li>・コロナ渦ということもあり、外部の研修は、オンラインなど機会をみつけて参加したが、例年に比べると参加の機会が少なかった。今後も工夫しながら研修の機会を大切にしていきたい</li> </ul>

#### 4 総合的な評価結果について

取り組むべき課題について、それぞれに行った自己評価の内容を、年度当初に教職員で共通理解をする。取り組み状況について話し合うことで、園としての目標や計画を明確にし、実践に向けていく。

#### 5 今後の課題

- ・保育者間で保育の話をする時間や研修の機会を大切にし、教育内容の充実を図っていく。
- ・日々の保育計画や行事の準備、園務分掌など、保育者間で連携を取りながら見通しを持って行っていく。
- ・子どもの育ちや保育について、保護者に分かりやすく伝え、子どもの成長を共に喜び合えるように信頼関係を築いていく。
- ・地域の自然や社会とのかかわりをもつ工夫をし、体験からの学びを大切にしていけるよう、保育者間で話し合い、保育に取り入れていく。

6 学校関係者の評価

日 時 令和4年5月27日

評価方法 書面

《 評価内容 》

評価項目	関係者評価内容・意見
I. 保育の計画性について	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認定こども園新築のため松園までバス移動しての保育でしたが、事故等もなくお疲れ様でした。時間の制約がある中でも活動への振り替え等の努力が散見されます。</li> <li>2. すべてのアンケート項目で、好意的な親からの評価であった。キリスト教精神に基づいて、園目標にめざした保育・教育が行われていると思う。</li> <li>3. 移動を伴う毎日の中で、うまくいかないなりに計画通りすすめたのではないでしょう。</li> </ol>
II. 保育の在り方、幼児への対応について	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児教育でも異年齢での交流が大事だと思いました。</li> <li>2. 一人ひとりの発達に応じて、心を受け止めた教育が行われていたと思われる。</li> <li>3. 歳の違う子供と交わることは、大変大事なことだと思いますので、今後はもっと交流をつくってほしい。</li> </ol>
III. 保育者としての資質と能力について	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境が変わった中でもチームとしての連携が図られていたようです。</li> <li>2. 園運営の要は教師間のチームワークであるので、今後共に良好な人間関係を保って欲しい。</li> <li>3. 職員全員がチームとして機能していたと思います。</li> </ol>
IV. 保護者への対応について	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. バス送迎の為保護者との接触時間の確保が大変で苦労が多かったと推測されます。</li> <li>2. 子育て相談面で、不安な保護者に対して気軽に話ができるよう、今後も取り組んで欲しい。</li> <li>3. 保護者への対応はしていたと思うのですが、例年よりも園の様子が分かりづらかったと感じています。</li> </ol>
V. 地域の自然や社会とのかかわり	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コロナ禍でなかなか難しい状況でした。</li> <li>2. コロナ禍のこともあり、近隣の小学校や地域の方との交流が、なかなか難しかったと思われる。</li> <li>3. わかりづらい項目です。もっともっと自然や地域にかかわることをやっていいと思います。</li> </ol>
VI. 研修と研究	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新しくなった認定こども園でその成果が発揮されることを期待します。</li> <li>2. 特になし。</li> <li>3. こちらもわかりづらい項目です。研修での学びを保護者へ伝える場があってもいいかもしれません。</li> </ol>

《 意見 》

- ・ 園長はじめ教職員が頑張って経営・運営できたと思う。
- ・ コロナ禍、園の建て替えといつもと違う環境での毎日は、子供、保護者、教師に非常にストレスだったと思います。そんな中で、保育に努めていただいたことに感謝しております。新し園舎は完成しましたし、ここから

は積極的にいろいろ取り組んでいただけたらと思います。

- ・ 子供にとっては、何もしないで成長しないよりも、何かに挑戦してけがをすることのほうが、学びがあると思います。今年度がいろんな挑戦で楽しくなるよう期待しております。

## 7 財務状況

公認会計士の監査により、適正に運営されていると認められている。